

[令和7年度事務事業]

Ⅱ．事業目的の達成状況						
事業の成果や活動実績の測定						
11	成果指標	単位		実績		目標
				令和6年度	令和7年度	令和8年度
	市内で蚊に刺咬されることにより感染症を発症した人の数	人	目標値	0	0	0
			実績値	0	0	
			達成率	—	—	
当該指標を選定した理由			・本事業は、蚊が媒介する感染症の発生と拡大を防ぐことが目的であり、蚊の防除活動（自治会等市民団体にボウフラの成長阻害剤を公共雨水枡に散布してもらう活動）により成虫蚊の発生を抑制し、その結果、ウイルスを保有する個体が発生する可能性は低くなり、ひいては、ウイルスを保有する蚊に刺傷されることや感染症の流行を防ぐことができるため。			
目標値の設定根拠・算出方法			感染症対策課が公表する感染症媒介蚊の調査報告			
12	活動指標	単位		実績		目標
				令和6年度	令和7年度	令和8年度
	蚊の防除活動の実施世帯数	世帯	目標値	108,922	110,398	110,669
			実績値	107,183	107,446	
			達成率	98%	97%	
当該指標を選定した理由			・本活動は、蚊の発生を防ぐため、成長阻害剤を自治会等に配付し、自主的に公共の雨水枡に散布する活動を支援するもの。 ・これにより、成虫蚊の絶対数は減少し、感染者を吸血する機会も減り、ウイルスを保有する蚊の割合も低下する。万一、感染者が市内で発生しても、成虫蚊が少ないことで感染拡大を防ぐことができるため。			
目標値の設定根拠・算出方法			蚊の防除活動を申し込んでいる自治会等の世帯数			

令和8年度 事務事業評価シート（2）

事務事業名	衛生害虫等対策事業	事業番号	011-248
-------	-----------	------	---------

Ⅲ. 投入量

事業コスト

※当初予算には、前年度からの繰越分を含む。（単位：千円）

	項 目	令和5年度	令和6年度	令和7年度		令和8年度
		決算	決算	当初予算	決算	当初予算
13	事業費（a）	17,903	15,272	16,985	16,093	13,975
	国支出金	0	0	0	0	0
	府支出金	0	0	0	0	0
	市債	0	0	0	0	0
	その他（ ）	0	0	0	0	0
	受益者負担金(使用料、手数料等)	0	0	0	0	0
	一般財源	17,903	15,272	16,985	16,093	13,975
14	人件費（b）	91,800	79,600	78,200	78,200	68,500
15	年間経費（c）=(a)+(b)	109,703	94,872	95,185	94,293	82,475

事業費の内訳

（単位：千円）

	項 目	年度		事業費	うち 一般財源	項 目	年度		事業費	うち 一般財源
		R7	決算				R7	決算		
16	事業費内訳	R8	決算	4,568	4,568	通信運搬費	R8	決算	189	189
			予算	4,638	4,638			予算	172	172
	電気使用料	R8	決算	758	758	生活衛生センター清掃業務	R8	決算	817	817
			予算	768	768			予算	817	817
	水道使用料	R8	決算	307	307	生活衛生センター機械警備業務	R8	決算	528	528
			予算	309	309			予算	528	528
	施設等修繕料	R8	決算	88	88	生活衛生センター樹木維持管理業務	R8	決算	275	275
			予算	155	155			予算	286	286
	物品修繕料	R8	決算	413	413	その他	R8	決算	8,150	8,150
			予算	765	765			予算	5,537	5,537

Ⅳ. 事業の効率性

単位当たり経費

	区 分	単位	令和6年度	令和7年度
			107,183	107,446
17	① 蚊の防除活動実施世帯数の状況	世帯	107,183	107,446
	② 上記①にかかる年間経費	千円	24,750	23,290
	③ 単位当たり経費（②÷①×1,000円）	円/単位	231	217
算出についての説明等		蚊の防除活動年間経費は人件費と消耗品費（使用薬剤費）を合算した額。		

Ⅴ. 評価

費用対効果に係る所見

18	ハチ類の中で相談件数の多いアシナガバチについては、市民自ら対応できるよう駆除指導と啓発を行い、将来的な行政対応コストの抑制に寄与した。 また、蚊の防除薬剤の配布については、事前調整のうえ郵送から職員によるポスティングへ切り替え、通信費の削減に加え、他業務の移動経路と組み合わせることで配布効率を向上させた。 更に、ホームセンターでのパネル展示や相談会の実施により、既存施設を活用した低コストで効果的な広報を展開した。
----	--

KPI等への寄与（基本計画等のKPI・取組の方向性や事業の目的の達成にどのように寄与したか）

19	・デング熱や日本脳炎など、生命に関わる感染症を媒介する蚊の発生抑制に向け、地域が主体となって蚊の防除活動の普及促進に取り組むことで、感染リスクの低減を図り、市民の健康増進に着実に寄与している。 ・ハチ類やネズミに関する相談対応や情報発信を通じて、生態や特性への理解を深める機会を提供することで、市民の適切な行動を促進し、無用な不安や混乱の抑制と、安全・安心な生活環境の実現に寄与している。 ・以上より、堺市基本計画2025における取組の方向性である「感染症対策の充実」に寄与したものと考える。
----	--

令和3年度からの実績等を踏まえた事業の必要性・有効性に係る所見（前年度の事務事業評価で点検対象年度を令和7年度とした事業のみ記載）

20	必要性	■ 高い □ 低い	本事業は、ハチ類や蚊等への対応を通じて市民の安全確保及び感染症リスクの低減に資するものであり、引き続き必要性が高い。 アシナガバチ対策の啓発により市民自らの対応を促進し、行政コストの抑制につなげているほか、蚊防除薬剤の配布方法の見直しにより経費削減と業務効率化を実現している。また、既存施設を活用した広報や地域主体の取組推進により、低コストで効果的な普及啓発が図られている。 以上のことから、本事業は効率的かつ有効に機能しており、市民の安全・安心な生活環境の確保に継続的に寄与していると評価できる。
	有効性	■ 高い □ 低い	